

# 雨の日の観光の可能性

## ～若者に対する意識調査が示唆するもの～

青野由季 株式会社スーパーキッズ

倉田陽平 首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 観光科学域

キーワード：雨天、肯定的エピソード、情報発信

【はじめに】日本の観光を考えるうえで、雨天への配慮は避けられない問題である。松田ら[1]は、観光快適度を決定する5要因の一つに降水量を挙げ、それを負の要因と考えた。雨天はとくに若い世代において旅行の満足度の低下につながるという調査結果[2]や、若い年代ほど雨を憂鬱ととらえているとする調査結果もある[3]。しかし、若者にとって雨は本当に「旅行の敵」なのだろうか？ 山田[5]によれば、悪天候は顧客満足やロイヤリティ評価に影響を与えるが、その要素は観光者の属性によって変化する可能性がある。そこで本研究では若者を対象に意識調査を実施し、彼らの旅行中の雨の経験やその捉え方、そして雨天時の潜在的な観光ニーズを探った。

【方法】首都圏在住の大学生・大学院生を対象にメールにて web アンケートへの回答を依頼し、2013年11月7日～12月18日の実施期間中に105件の回答を得た。本アンケートでは、回答者の属性、旅行中に雨に降られた経験、最も印象的だと思う旅行中の雨のエピソード、最も直近の旅行中の雨のエピソード、それらのエピソードの発信経験、雨に降られた土地への再訪意思、雨による外出中止の経験、雨だからこそ行ってみたい場所やしてみたいアクティビティ等について聞いた。また各エピソードの内容を肯定的、否定的、その他に分類し、その内容比較や回答者属性の比較を行った。

【結果】回答者の性別は男性37%、女性63%であった。回答者の88%が、旅行中に雨に降られた経験があると答えた。一方で、58%の回答者が「雨により旅行を中止した経験はない」と答えた。雨天のため自らの意志で旅行を中止した経験のある者は30%であり、不可抗力により中止になった経験のある者は21%であった（重複あり）。

「最も印象的な旅行中の雨のエピソード」は90件が寄せられ、そのうち肯定的なものが40%、否定的なものが32%だった。両エピソードともに「激しい雨」についての記述が多く見られたほか、「計画の変更」「雨の風景」「非日常的」といった話題が共通して見られた。肯定的エピソード特有の話題としては「人の少なさ」「人とのコミュニケーション」「ゆったりと過ごした時間」「雨から晴れへの移り変わり」、否定的エピソード特有の話題としては「厄介な雨具」「危険な経験」「雨男・雨女」が挙げられた。

「最も印象的な旅行中の雨のエピソード」を他人に向けて発信した経験について聞いたところ、64%が「旅行同伴者以外に話した」と回答したが、その経験をSNSなどに投稿した者は14%に留まった。肯定的エピソードほど発信されやすいだろうと予想していたが、実際には肯定群・否定群の間に発信状況に差は見られなかった。また、肯定群・否定群に性別の差も見られなかった。肯定群・否定群の属性に差が見られた項目は「ここ1年の旅行日数」であり、旅行日数の少ない人ほど肯定的エピソード、旅行日数の多い人ほど否定的エピソードを挙げる傾向が見られた。こ

の理由として、旅行日数の少ない人は1回1回の旅行の経験を肯定的にとらえようとする意識が働いている可能性がある。

「最も印象的な旅行中の雨のエピソード」を挙げた回答者の9割以上が、その観光地に「すでに再訪した」ないし「もう一度行きたい」と回答していた。ネガティブエピソードを挙げた人でも、その大半は「晴れた日にもう一度行きたい」という意見を持っていた。この結果から、雨に降られた一回の経験がネガティブな印象だったとしても、それが直接的にその観光地への再訪意思を消失させる原因となる可能性は低いと考えられる。

同様の分析を「直近の旅行中の雨のエピソード」に対しても行った。この結果、「最も印象的な旅行中の雨エピソード」に比べると、①否定的なエピソードの登場割合が高く、②「激しい雨」についての記述が少ない、という傾向が見られた。

「雨の日にしてみたいアクティビティ」は29件の回答が挙げられた。また、「雨の日に行ってみみたい場所」は、回答者の23%が「ある」と答えた。それらを分類したところ、①雨の風情を楽しむ（場所としては街並みや庭園、寺社仏閣が有名な都市などが該当）、②雨の日ならではの自然の迫力や美しさを体験する（滝や川、森など）、③雨の日限定のサービスを受ける（商業施設やテーマパークなど）、④室内でゆったりと楽しむ（博物館など）、⑤映画等で見た雨のシーンの撮影地を見る、⑥雨に濡れて楽しむ（完全装備で暴風雨を体験する、泥だらけになってスポーツをするなど）に分けられた。⑤はフィルムツーリズムの力により雨を逆手にとることができる可能性を示唆している。⑥はアクティビティとしては多く挙げられたものの、具体的な場所名は挙がらなかったことから、雨に濡れて楽しめるイメージを持つ場所がまだ不在であることを示している。

【おわりに】本調査の結果、雨の日の趣ある雰囲気や自然の驚異、あるいは居合わせた人との会話や贅沢な時間の使い方など、雨天の観光にも良い面はあり、それらは「雨嫌い」とされる若者たちの一部にも認識されていることがわかった。しかしながら、今後、より多くの人々に雨天時の観光の楽しみ方を認識してもらうには、情報の力による手助けが必要ではないだろうか。大多数の観光情報メディアはもっぱら晴天時のイメージばかりを用いているが、一部には雨天時の楽しみ方を紹介するメディアも登場してきている[5-6]。雨の日ならではの観光の楽しみ方や魅力を見出し、それを広めていくことは、雨の少なからぬ日本の観光振興を考えていく上で、今後、重要課題の一つとなるのではないだろうか。

#### 【参考文献】

- [1] 松田恵・井上剛・文屋信太郎・木根原良樹・関根秀真・久保川陽呂鎮・佐藤正樹（2013）「地域スケールの気候変動予測と観光快適性指標を用いた影響評価」三菱総合研究所報 56, 30-45.
- [2] 沖縄県観光商工部観光企画課（2009）平成20年度観光統計実態調査 報告書.
- [3] Amazonet プチアンケート vol. 26 「雨」に関する調査について [http://amazonet.com/petit\\_pdf/enq-26.pdf](http://amazonet.com/petit_pdf/enq-26.pdf)（閲覧日 2014/1/26）
- [4] 山田雄一（2012）「旅行先での天候が顧客満足およびロイヤルティ意識に及ぼす影響」日本国際観光学会 19, 47-52.
- [5] 志摩市観光協会 HP「雨でも遊べるスポット」 <http://www.kanko-shima.com/rainyday/spot.html>（閲覧日 2014/1/21）
- [6] JR 東海 HP「雨の日の京都の楽しみ方、教えます」 [http://souda-kyoto.jp/travel/life/rainy\\_weather.html](http://souda-kyoto.jp/travel/life/rainy_weather.html)（閲覧日 2014/1/21）